

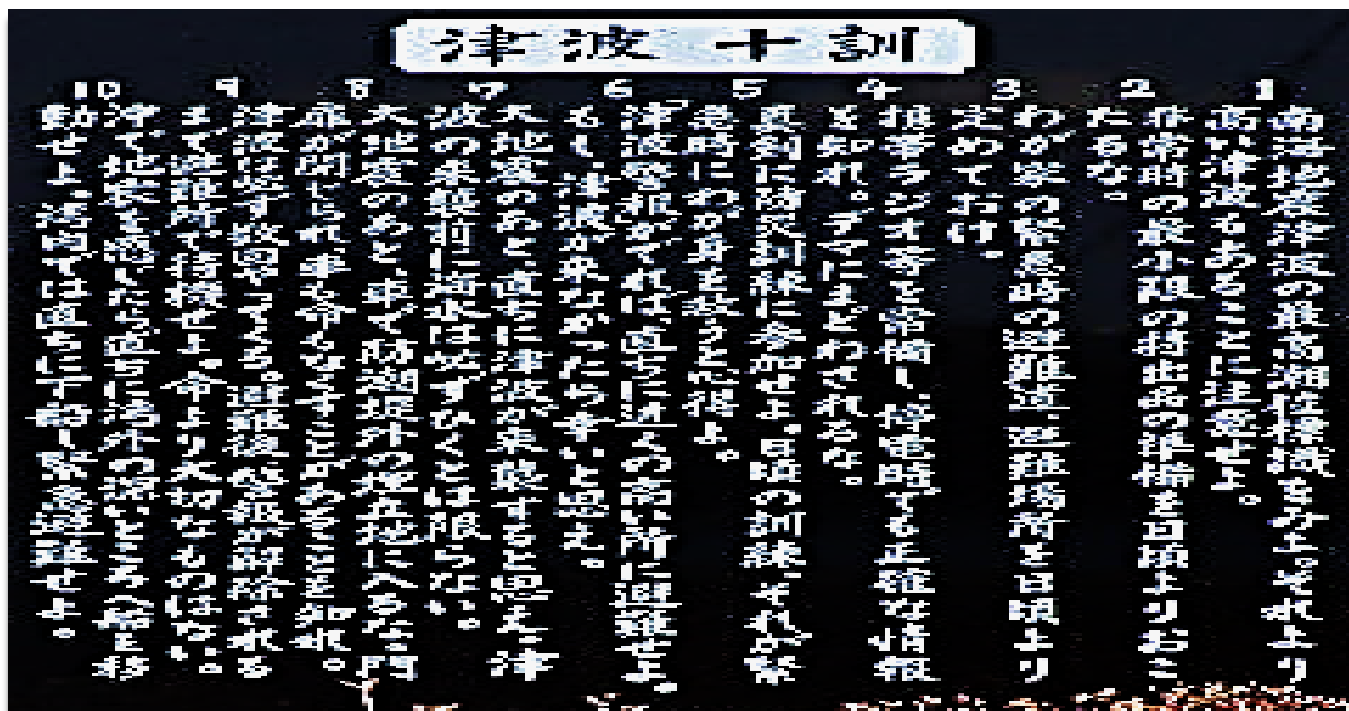
school library

communication

平成31年3月10日(日)

生麦中学校 学校司書

郡戸香澄



昭和21年(1946)の南海地震で妻を亡くした夫の体験談です。👉

地震の時、わしの旅館にはちょうど森繁久彌さんが来とって、二階で寝よった。森繁さんに「ここで夜が明けるまで動かれんぞ。わし、帰るわ」言うて、浅川の自宅に自転車で向かった。浅川の端へ来たら、ド〜と波が来て、大きな貨物船や機帆船が流れてきよった。それが一番最後の潮やった。夜を明かし、胸まで水に浸かってようやく自宅にたどり着いた。

家の辺りは流れてしもとった。わしは子供を捜した。無地山へ逃げとった。「お母さんはどうしたんな」と聞いたら、「お母さん見えん」という。「もしかしたら、やられとるかも分からん」と思うて下へ降りたら、いとこが「おまえくのお母さんみたいな人が死んどる」というて初めて分かった。浜によけ積んであった材木がどっと流れて来て、家内はそれに足をとられて死んどった。逃げる時、上の子が下の子を負うて家内も一緒に逃げたんやけど責任感の強い女で、「おとうさんもおらんし、こら子供のもんもって逃げとらないかん」思ってもどって来たんやろ。

ここの人は天神さんに逃げたんやけど、三回か四回波がきた。天神さんの石段の一番上まで波がきとった。津波というもんは、浜で渦のようにまうもんらしい。ほれに、二階建ちの家が下をとられてしもて、そのまま二階がパタンと落ちてしもたり、えらいもんやな。

あんな大きい地震や津波の時は、「はよう逃げ、はよう逃げ」というたらないかんけど、中には「こんな所まで津波が来るか」という人もおる。ほんやけど、そんな時は素直に人のいうことを聞いて逃げるがええんでないかと思う。(『先人の教えに学ぶ四国防災八十八夜』第27話より抜粋)



「**命**を助けてもらった。」と、**命**の恩人に会いに**森繁久彌**さんが船で**浅川**の町にやってきた時の写真です。(超ミニスカートの私の視線は、森繁さんの顔より手にくぎ付けです。👁️)

当時中学生だった父は「12月の寒い夜中、パンツいっちょようで弟をおんぶして愛宕山(あたごんさん)に逃げた。」と話していました。

新築したばかりの家は津波で流されましたが、家族全員

すぐ逃げたので**命**は助かりました。



徳島を襲った主な巨大津波

津波の名称	年月日	地遠のマグニチュード (M)	浅川での死者数
正平の津波	1361.8.3	8.4	不明
永正の津波	1512.9.13	7.9	不明
永長(永)の津波	1605.2.3	7.9	不明
宝永の津波	1707.10.28	8.4	140人以上
安政の津波	1854.12.24	8.4	2人
南海地震津波	1946.12.21	8.1	85人
チリ地震津波	1960.5.24	8.5	0人



避難場所のボードがいたるところにあり、町をあげての避難訓練も行われています。いずれ再びやってくる津波に備え、高齢者が避難しやすいように愛宕山(あたごんさん)の工事は着々と進行中です。

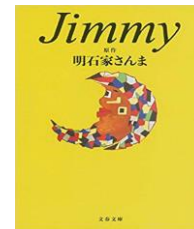


ている。」と、明石家さん

まさんが言うように、子どものころ、父が体験した津波の経験が、人を笑顔にすることに繋がっているように思う。父の7回忌で集まった津波体験者の弟たちからも笑みがこぼれる話がたくさんでてきた。亡くなった人の分まで笑って生きなければという思いが未体験の人の

何倍もあるのではなかろうか？

(中学生の時好きだったさんまさんから、こんなハガキをもらっていたのだと、40年ぶりに実家で見つけました。恥ずかしいわ〜 (*ノωノ))



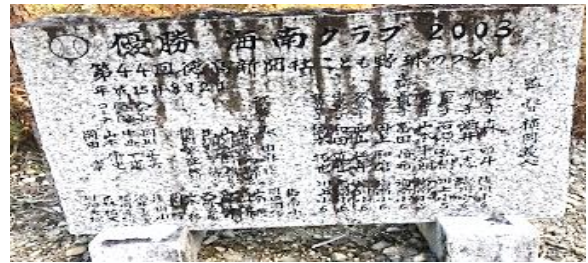
図書館にある本

「やさしさを持った人は、それ以上の悲しみを持つ

「笑いながら死にたい」というくらい人を笑わすのが好きで、面白おかしく話をするので周りにはいつも笑顔が絶えなかった父親。実家を離れ、帰省した時、「なんか面白い話あるけえ〜？(阿波弁)」と聞くと「あるある」と言って、笑い泣きする話がいくつも出てくる父でした。例えば、「まきにいが、海にかかる柵のない橋を自転車で渡っていて、そのまま海に真っ逆さまに落ちた。」話は、思い出すたびに笑ってしまいます。思わず「ETか？」と突っ込みを入れたくなります。ETなら自転車に乗り、空に飛んでいくのでかっこいいのですが・・・(「ET」は、1982年ステイブン・スピルバーグ監督の映画です。本が出ていないのが残念です。(ノド)ツツシ…)



もう1つは笑えない話？「魚のえさを取りに大きな冷凍庫に入った時、中から開けることが出来ない冷凍庫に父が閉じ込められて、死にものぐるいでドアを叩き開けてもらった。」話。笑いごとではない話なのに「冷凍人間にならずにすんだ。」と言って笑っている父。「もし冷凍人間になったら、解凍すると生きかえるのかなあ〜？」なんて…「実際に実験してみたい。」と不謹慎なことを言って突っ込みをいれる私(ノド)「そんなマンガみたいな話あるの？」という笑い話が、そこら中に転がっている町、**浅川**です。



平成最後の年末、**浅川**駅に降りた場所から**卒業**した**浅川**小学校のグラウンドを眺め、平成最後の日本シリーズの優勝投手で侍ジャパンシリーズ 2019 日本代表にも選ばれた福岡ソフトバンクホークス**森唯斗**投手が、小学生の時に優勝した記念碑を撮影（妹を含む、森3きょうだいの名前が刻まれていることもスゴイ！ことです。） その時の**横岡義人**監督（妹と同級生）の息子さんは**鳴門渦潮高校**の副キャプテンで2017年夏の甲子園に出場しました。（私も応援に行きましたよ！（o^ー^o）=）

そして、写真を撮り終わり実家に向かおうとした時、なんと！**森唯斗**投手と**横岡義人**監督が**浅川**小学校のグラウンドに自主練のため登場！という、まるでキツネにつままれたように引き寄せられた偶然にビックリ仰天（◎_◎☺ \ (◎o◎) / ! (◎_◎☺)

小学校の低学年だった**唯斗**くんたちと、伊勢田川に泳ぎに行った頃の幼い顔とは違い、頼もしいプロ野球選手の顔になっていました。☺

料理研究家の**浜内千波**さんも**浅川**出身です。図書館に本があるので、お料理好きな人は読んでくださいね。



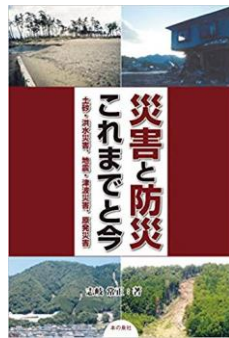
戦争などで壮絶な体験をした人は、そのことを思い出したくなくて、忘れてしまいたくて、なかなか口を開くことをしないのが日本人の常であるような気がしている。だが、最近はずいぶん口を開いて壮絶な体験を、**伝える**大切さがわかる時代になってきた。

戦争は、人が始めることなので、食い止めることができる。しかし、自然の力を食い止めることは難しい。だから、万人が考えていかなければならないことなのだと思う。

東日本大震災がおこった**3月11日**に、伝統ある生麦中学校の制服を着て**卒業**する最後の学年となる**71期生**。**卒業**式を迎えることができなかつた人、その年まで生きられなかつた人のことを考える意味のある日に、誇りをもって歩いて行って欲しい。

72期生の2年生が遠足の事前学習として調べている**東京大空襲**がおきた**3月10日**に、学校図書館通信の発行日が重なりました。東京の調べ学習では、図書館の本や資料を使って新聞を作り、1人1人が真剣に取り組んで完成していました。

今、生まれ育った**浅川**の津波、そのことを伝える伝道師としてここにいるような気がしました。今号では、図書館にある**災害・防災**に関する本の一部を紹介します。本を読んで、災害に備えて欲しいと思います。



今まで、たくさんの方々に本を寄贈して頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。頂いた本の一部を紹介します。

- 📖 『呼んでる怪談』シリーズ 71期生 Eくんが小学生の時に読んでいた本
- 📖 『巨人の星』『あしたのジョー』 お弁当販売の中島さん (71期生のお母様)
- 📖 『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』 図書ボランティア浦本さん (71期生のお母様)
- 📖 人気のジャニーズ雑誌 図書ボランティア川崎さん (71期生のお母様)
- 📖 人気のライトノベル『とらドラ!』『だがしかし』 卒業した69期生のSさん
- 📖 『模倣犯 第1巻』 加藤先生が1巻から読みたいと言って、読んだ後寄贈してくださった本で、
また返却されなくて困っているので、借りた人は早く返してください。
- 📖 『図書館の主』 子安台公園ラジオ体操仲間の杉山さんからは、息子さんが購入した本で中学生にもおススメと期間限定でお借りしました。3年生は10分休みのわずかな時間や朝の早い時間や放課後に来て読み進めていました。
- 📖 『3丁目の夕日』『精霊の守り人』 前校長の藤田先生
- 📖 『ミッケ!』 佐藤彩先生 本をあまり読まない子どもたちに好評です。
- 📖 『遊び図鑑』『工作図鑑』 山口校長先生 自然教室や校外学習の時に参考になる本です。

生麦中学校の図書館は open space (オープンスペース) です。Open ということは、広々とした公開されている図書館だということです。学校を離れても、家族の方や近隣の方も利用することができます。そんな、居心地の良い生麦中学校の図書館にこれからも本を読みに来てください。(利用する時は、職員室の職員に声をかけ、ルールを守ってくださいね。)

「 school library communication NO.21 」最後の発行になりました。見逃してしまったNo.(ナンバー)を讀んでみたい人は、学校のホームページ (www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/namamugi) で見ることができます。本を読まない人にも、この学校図書館通信を讀むだけで、何冊もの本を讀んだことになるように、分類番号を意識して本を紹介してきました。様々な、本の情報を知り、興味がわいた本を手にとって読んでみてください。これからも、益々、生麦中学校の図書館が過ごしやすい空間になることを期待しています。今までつたない文章にお付き合いくださいましてありがとうございました。

